

中国における水辺の伝統的な商店街の地域性 表現：都江堰市の楊柳河街を例に

付, 琳鳳 / FU, Linfeng

(出版者 / Publisher)

法政大学大学院デザイン工学研究科

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

法政大学大学院紀要. デザイン工学研究科編 / Bulletin of graduate studies.
Art and Technology

(巻 / Volume)

12

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

6

(発行年 / Year)

2023-03-24

(URL)

<https://doi.org/10.15002/00030218>

中国における水辺の伝統的な商店街の地域性表現

— 都江堰市の楊柳河街を例に —

THE LOCALITY OF TRADITIONAL COMMERCIAL STREET ON THE WATERFRONT IN CHINA
YANGLIUHE STREET IN DUJIANGYAN CITY AS AN EXAMPLE

付琳鳳

Linfeng FU

主査 高村雅彦

副査 下吹越武人・岩佐明彦

法政大学大学院デザイン工学研究科建築学専攻修士課程

In the process of China's rapid urbanization, the design of urban waterfront spaces has lacked the regionalism. As a result, traditional commercial streets have been blindly transformed without their characteristics. Therefore, the purpose of this research is to investigate the local characteristics of traditional waterfront commercial streets by analyzing the strengths and weaknesses of the Yangliu River street.

Key words: Regionalism, Traditional Commercial Street, Waterfront Space

1. はじめに

(1) 研究背景

中国の都市の急速な発展に伴い、本土文化と地域文化が衝撃を受けている。さらに、都市水辺空間の地域性が無視されているため、多くの都市が同じような水辺空間を持っている。それと同時に、都市の地域性が失われているため、多くの都市が伝統的な商店街の特徴が無視され、盲目的に改造された。それによって、本稿の課題は水辺の伝統的な商店街の地域性表現を検討することである。そして、標題通り、本稿は、都江堰の商店街楊柳河街という水辺空間の商店街を研究対象として、水辺空間の地域性や伝統的な商店街の特徴を分析した上で、楊柳河街の地域性表現において学ぶべき方法や問題点を検討し、水辺の伝統的な商店街の地域性表現の策を生み出すことを目的としている。

(2) 研究方法

本稿の研究方法は文献調査、現地調査、アンケート調査である。

まず、都江堰市の河川と水辺空間かつ建築に関する資料を収集し、その水系構造と水流の特性と水辺空間の特徴かつ都市建築様式を明らかにする。そして、川西（四川省西部地域）の伝統的な商店街に関する情報を収集し、商店街の空間的・建築的特徴を明らかにする。それ

によって、都江堰の水系構造と水流の特性を都江堰市の水辺空間と対照・分析を行い、相互の関係を踏まえて、都市水系の水辺空間に対する影響を分析する。

それを踏まえ、楊柳河街で現地調査や写真撮影を行う。楊柳河街の建物、街並みの空間、業態配置の現状を明らかにする。

最後に、楊柳河街の業態に対する満足度における楊柳河街を訪れた人にアンケートを配布する。そのアンケートについてのデータを分析し、楊柳河街のビジネス業態の長所と短所を分析する。

2. 地域性、伝統商店街について

(1) 地域性

自然環境と社会文化は建築の地域性の表現に影響を及ぼしているとのことである。

a) 自然環境の影響

自然環境（地域の地形、気候）によって、都市の全体的配置と建築の形態かつ建築材料と技術に影響を与える。

b) 社会文化の影響

地域文化、建築文化、人の行動特徴という社会文化の要素によって、都市形態に影響を及ぼす。特に、水辺都市は水辺建築という水文化の影響を受けている。

(2) 伝統商店街

伝統商店街は物質的な属性と社会的な属性を持っている歴史的な街である。

a) 伝統商店街の機能

商業機能、体験機能、交通機能という三つの機能である。

b) 伝統商店街の分類

伝統的商店街の位置づけによって三つの種類、文化特色街・旅行娯楽街・商業専門街に分けることができる。それに対し、伝統的商店街の建築遺留から継承型伝統的商店街と再現型伝統的商店街に分けることができる。本稿の研究対象楊柳河街は再現型の文化特色街である。

3. 川西伝統商店街の特徴

川西地区では伝統商店街が数多くあり、その地区特有の特徴も生じてきた。本論文の研究対象である都江堰楊柳河街も川西地区に位置している。

(1) 川西伝統商店街の空間特徴

街道空間の形態から見ると、川西伝統商店街の両側に建てられた建築は壁面が少なく、取り外し可能な板張りの門が一般的で、街道全体が「オープンかつ柔らか」なイメージを与えている。街道の空間機能の面では、主に交通・商業・日常生活・社会文化機能がある。空間尺度の面では、縦横比はおおよそ 1:1 か 1:2 となっている。入口空間の面で、商店街の入口は比較的に開かれた空間であり、通常鳥居や縁起のいい植物などの象徴的な物件を設置されている。街道の広場は機能が多様的で、商業貿易や交通の集散地のみならず、民俗活動を行う場所でもある。

(2) 川西伝統商店街の建築特徴

a) 平面配置

川西伝統商店街の両側にある建物はほとんど「店宅式」配置をとっている。店宅式配置は川西居住用建物でビジネスと住宅を結びつけた建築配置方式であり、主に「前店後宅」「下店上宅」に分けられている。

「前店後宅」は表側で店舗を経営し、裏側では居室やトイレ、厨房などの部屋がつながっている仕組みである。(図 1)

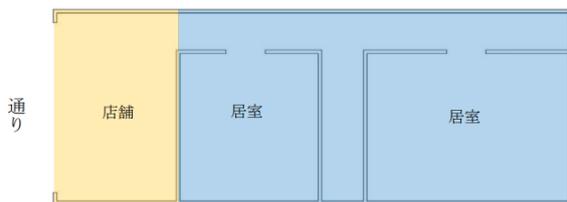


図 1 「前店後宅」のレイアウト (筆者作成)

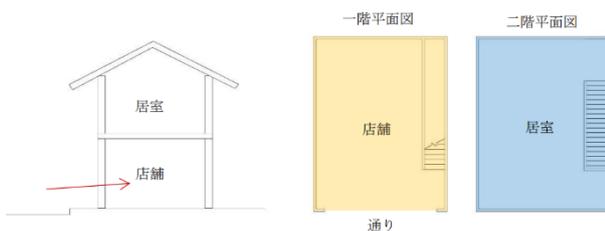


図 2 「下店上宅」の断面と平面 (筆者作成)

「下店上宅」という配置とは建築の下層を全部営業区域にし、居室、厨房などの居住空間はその上に設置するという方式である。楊柳河街の建築配置はまさにこのような「下店上宅」配置である。(図 2)

b) 建築立面

軒: 川西建築の軒を見ると壁から遠く反り上がっているのが見られる。挑檐をもとにして作られた軒廊は川西民居でも特色ある建築空間である。軒廊は軒が外へと延ばされた回廊で、建物をつなぐ通路である同時に、建築の空間と階調を豊かにする役割を果たしている。楊柳河街の道路の沿線にも軒廊が設置されている。

壁体: 川西伝統商店街の建築の壁体は主に板張り・レンガ・モルタル壁である。

門: 川西伝統商店街の門は普通はめ込み式の木製のドアで、一枚一枚の木の板からできている。

窓: ラーメン構造の建物では窓の大きさと形は力学に影響されにくいいため、川西建築では数多くの窓の種類が出来上がっている。

建築色彩: 白い壁に碧瓦、原色か褐色の穿斗式構造が壁面に当たるものが川西の伝統的な建築を構成する主な色彩となった。川西地区の気候条件や地理状況、当地の伝統文化の影響を受け、伝統建築の各部材はその材料自体の色を表している。

4. 楊柳河の水辺空間における地域性

水辺空間の地域性表現に影響する要素は河川の特性と水辺建築の特徴の二つである。

(1) 河川が水辺空間に与える影響

a) 水系構造の影響

水辺の都市では、河川の水系が都市空間の特性の基礎となる。都市の自然水系の異なる模様が、都市の異なる空間パターンを決定し、その結果、異なる特性を持つ都市の水辺空間が生み出される。

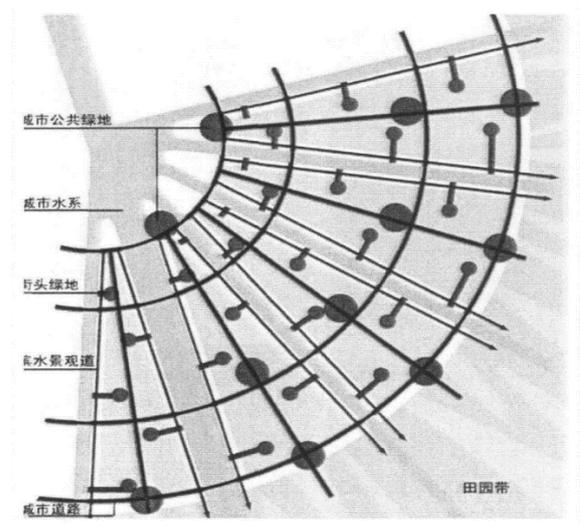


図 3 都江堰の扇状の空間構造 (都江堰市計画所より)

都江堰の水系構造は放射状の河川網となっていて、河川に沿って都市道路が扇形に展開し、都市空間は放射状に広がっている。その結果、独特の扇形の都市空間パターンが形成されたのである。このような扇形の空間パターンは都江堰市の地域性である。(図3)

都江堰の都市パターンは扇状の空間構造となっており、都市プレートはくさび形である。川に挟まれたくさび形の都市プレートは面積が小さく、故に、都市の水辺空間の敷地の面積も狭くい。狭い水辺では、広い水辺敷地を作ることができないため、水辺に大規模な公共施設(節点)を構築することができない。

都市の水辺空間敷地をもとに考え、水辺空間敷地の状況を踏まえて、その敷地にふさわしい水辺空間の特色を創出することこそが、水辺空間の地域性の基礎である。

(2) 水流の特性の影響

本研究では、楊柳河の川幅、流速といった角度から水流の特性が楊柳河通りの水辺空間に与える影響を検討する。

a) 川幅

川幅は、水辺空間にある水辺建築空間に強い影響を与える。川幅が広ければ、川の両岸の建物のつながりは弱くなる。一方、川幅が狭ければ、川の両岸の建物の繋がりには緊密になり、川の両岸にある水辺の建物が、水域や道路と一体化になる。楊柳河は幅が狭く、約3mしかない。楊柳河通りの両岸とも同じレイアウト、道路や水域が川に沿って線形に広がっている。両岸の建築様式も同じで、深い軒、白い壁と黛色の瓦を特色とする四川西部の民家様式が主体となっている。

b) 流速

流速が速い場合は、水防や安全上の理由から、親水活動は主に水の流れを見たり聞いたりすることになる。両岸の建物も河から離れる。もし、水流が緩やかであれば、水辺空間の安全性も高まり、水と直接に触れ合ったり、水辺で遊んだりするような親水活動が可能となる。楊柳河の流速が緩やかで、水辺空間の安全性が高いので、水辺空間に親水台が設置されていて、人々は直接楊柳河と接触することができる。水辺のガードレールがそれほど高くなく、気軽に水を眺めたり、釣りをしたりすることができる。

(3) 水辺建築空間の特徴

a) 水辺建築空間のレイアウト

都江堰の水辺建築空間レイアウトは河道の広さにより、2タイプに分かれている。

a. 川幅が広く、内江の両岸にある水辺建築空間のように、両岸の建物が視覚的につながるだけのタイプ。川幅が広い場合の水辺建築空間の水辺建築と水域との関係はさらに「水域-建物-街路-建物」と「水域-街路-建物」の二種類に分かれている。(図4)

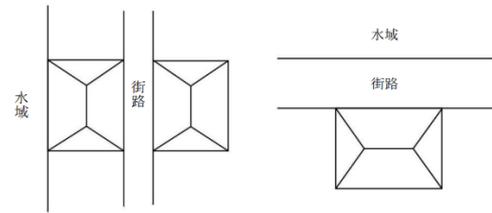


図4 「水域-建物-街路-建物」と「水域-街路-建物」のレイアウト(筆者作成)

b. 本論文の対象である楊柳河通りのように、川幅が狭く、両岸の建物が密接に繋がっていて、水域と両岸の建物が共鳴し、一体化となっているタイプ。水辺建築空間のレイアウトは「建物-街路-水域-街路-建物」となっている(図5)。

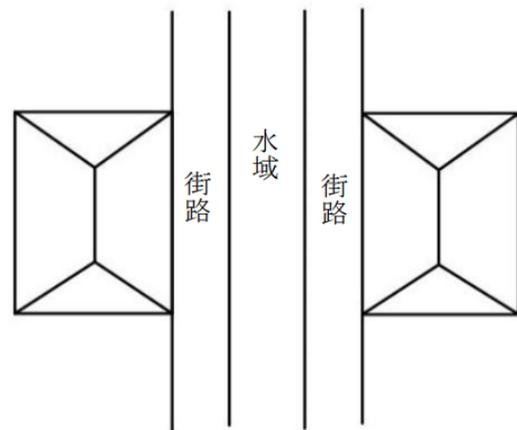


図5 「建物-街路-水域-街路-建物」のレイアウト(筆者作成)

街路が河の両岸に位置し、建物が街路に沿って並ぶ。川幅が広くなく、川沿いの街路も狭いため、このタイプのレイアウトの空間一体感が強い。

b) 建物の断面と河との関係

楊柳河東岸の建物の一階は騎楼空間となっていて、人々はそこで雨除けできる。一階の店舗と合わせて、立体感と商いの雰囲気を作り出している。だが、建物の上層は閉鎖的で、簡単な傾きをつける屋根を用いただけで、水に面する側にはルーフトラスもなければ、立面には景色を眺められるバルコニーもない。水との交流が少ない。

c) 建築様式

楊柳河通りの建築様式は、都江堰市の建築様式と統一されているので、本文では、都市全体の建築様式を明らかにする上で楊柳河通りの建築様式を解明する。

都江堰の旧市街域内の街に面する建物は、主に川西民家様式である。街道に隣接しない建物の大半は、1980年代の実用性重視の住宅様式である。楊柳河通りは旧市街に位置し、その建築様式は川西民家建築様式と前文で分析した川西の伝統的な商店街の建築様式である。

5. 楊柳河街の現状分析

前文では、川西の伝統的商店街の特徴と楊柳川水辺の空間の地域的特徴を分析し、次は楊柳川街の地域的表現を明確にする。商店街の空間上の地域的表現、楊柳河街の建築の地域的表現及び楊柳河街の業態という3つの面から、楊柳河の現状を分析するつもりである。

(1) 商店街空間の地域的表現

a) 外部空間の地域的表現

楊柳河街は都江堰市の旧市街区に位置し、その平面的レイアウトは旧市街区の都市肌理に従い、都市肌理への継続でもある。楊柳河街の商店街は楊柳河に沿って配置され、また道路の形態は都江堰市の都市道路形態と同じように、線形の空間配置となっている。店舗は道路の両側に配置され、しかも進退関係にある。両側の建築には縁側を持っており、灰空間に形成している。異なる都市には異なる都市の肌理を持つが、人々も異なるような都市記憶や感情を持っている。というように、楊柳河商店街は都市肌理への継続も、地域的表現の一つになる。

b) 街並みの空間の地域的表現

街並みの空間の形態：前文でも述べたように、川西の伝統的商店街の街並みの空間形態の地域的特徴は、道路の両側に沿って、小さい体量の建物なので、柔軟なレイアウトが実現できた。両側の建物が高低差をつけたり、開いたり閉じたり、それに前後進退したりすることで、街空間の形態を整然な直線ではなく、変化に富んだ線にしていた。楊柳河商店街の街空間の形態は、転換、進退、陰角空間を通じて、その地域的特徴を表現している。

街並みの空間尺度：川東岸の街並みの空間尺度 H/D の値は約1となる。前も述べたが、川西の伝統的商店街の建物の高さとの比率は1から2の間にある。したがって、東岸の街の空間尺度と川西の伝統的商店街の道路の空間尺度と似ており、このような街の空間尺度のもったビジネスのリズムが緩めていて、顧客が便利に店舗に歩き出し、商店街の貿易機能には有利である。また、西岸の街の空間尺度 H/D 値は3から4の間にあるが、片側が川岸であるので、やや比率が大きく、街空間はほとんど抑圧の感じがないのである。

街並みの空間ノード：(1) 入り口の空間：楊柳河街の入り口の空間は典型的な川西伝統的商店街の入り口の形式を採用している。入り口は、東側の建物、西側の朝天橋、南側の鳥居の三方にとも囲まれた開放的な空間である。そして、入り口の空間には鳥居が配置され、鳥居と柳の木と一緒に入り口の空間のシンボリックな景観を作っている。(2) 小橋と広場空間：前文で言及したが、都市のプレートが楔の形をし、一方浜水敷地の面積が小さく、広い広場を形成できないことで、楊柳河街は、橋元の空間と前文の陰角空間を結び付けて、広場空間を形成している。道路中のこのような広場空間は、線形道路の単一な空間リズムを中断し、道路空間の秩序を開いたり集めたりする感覚を与え

ながら、豊富な空間的感覚を作っている。(3) 親水プラットフォーム：前には楊柳河の流れの特徴について、河道が狭く、流れの速度が遅く、浜水空間の安全性が高い特徴を分析した。人々が水に直接に接触できるように、親水プラットフォームを設置した。楊柳河街の親水プラットフォームは4つある。

(2) 楊柳河街建築の地域性表現

a) 建築の平面配置

前で分析したように川西伝統的な商店街の建築は店宅式配置が多い。楊柳河街の建築も店宅式が一般的であり、街の奥行が浅いため、建築の平面配置のほとんどが「下店上宅」式である。川西伝統的な店宅式建築は普通二階の建築が多いが、楊柳河街の建築のほとんどが三階以上である。ゆえに、楊柳河街の建築の平面配置は伝統的な店宅式建築の平面配置に基づいて調整されたものと考えられる。伝統的な店宅式建築の屋内にある階段を外に移すことによって、単独な階段室ができ、隣り合わせの店舗と一つの階段を共に利用することになる。(図6)

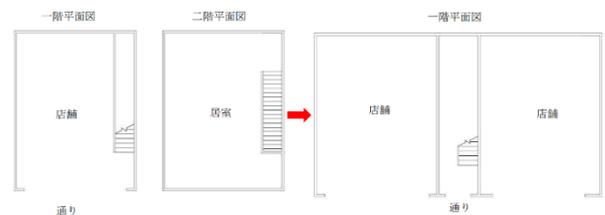


図6 伝統的な店宅式配置と楊柳河街の店宅式配置の比較

b) 建築の立面

軒：長い軒と軒の下の挑檐構造は川西伝統建築の地域性特徴要素である。楊柳河街の建築設計では長出檐の要素を用いていて、軒廊の要素も使用している。東岸で軒廊は交通空間として利用されていて、西岸の軒廊は商業空間の延長として利用されている。

壁体：楊柳河街建築の壁面設計では、川西伝統商店街の建築でよく用いられる板張りの壁・レンガの壁・モルタル壁を使用している。建築の壁体立面はこの三種類の壁を組み合わせることで、豊かな立面効果を発揮している。

窓：楊柳河街では川西伝統建築の窓要素を用いている。

建築色彩：前で述べたように川西の典型的な色彩構造は白い壁、青黒色の碧瓦、褐色の木構造である。楊柳河街の色彩選択でも主に黒・白・ブラウン・灰色が主となっていて、川西建築の地域制特徴を示している。

(3) 業態分析

a) 人の地域性行為活動

商店街の業態構成は主に当地の人の行為活動の需要によって決められるため、楊柳河街の商業業態の構成を分析する前に、まず都江堰市市民の地域性行為活動について考察する。都江堰市の地域性行為活動に影響する地域性文化には主に、娯楽・お茶・美食の文化がある。

娯楽文化活動：都江堰市の娯楽文化活動は麻雀を打つことで、人々はよく川岸に集まって麻雀を打っている。

茶文化活動：四川人はコミュニケーションが好きで、よく蓋碗茶を飲んだり、おしゃべりをしたり、パフォーマンスを楽しんだりする。そのため、よく川辺で人々が集まってお茶を飲みながらおしゃべりする姿が目映ってくる。

美食文化活動：当地特色のグルメがたくさんあって、よその町の人々もよくグルメを楽しみに都江堰市へやってくる。

b) 業態現状についての分析

本論文では楊柳河街の現在の業態の種類と割合について分析する。さらに、楊柳河街の人々に対し業態満足度に関するアンケート調査を行い、それをもとにデータを収集し、楊柳河街の業態の優勢と劣勢について考察する。

業態の割合

楊柳河の業態種類は全部で18種類ある。(円グラフ)円グラフから見られるように楊柳河街の衣料品と飲食の業態の割合が高い。麻雀茶館は楊柳河西岸の街にのみあり、西岸の商業業態では高い割合を占めている。今回の実地調査ではコロナ禍の影響を受け、商売が不況にあったため、空き店舗が多かった。

c) 楊柳河街の商業業態の満足度調査

人々が楊柳河街の商業業態に対する満足度を調べるため、筆者は調査アンケートを二つの部分、つまり回答者の背景と商業業態の評価に分けた。

回答者の背景の面で、アンケートでは回答者の性別、年齢、出身地、楊柳河街に来た目的、普通どの時間帯に楊柳河街に来るのかについて調べる。この部分では主に楊柳河街にやってきた観光客の種類および観光客が楊柳河街に対する商業業態のニーズについて考察する。

今回のアンケート調査の結果から40-60才および60才以上の人々が楊柳河商店街の主な消費者層であることが分かった。また、主にお茶と麻雀を楽しむことを目的としている。

商業業態の評価の部分で、アンケートでは楊柳河街の商業業態に対する満足度評価を三つのレベル、満足・どちらともいえない・不満に分けた。この部分の設置は主に楊柳河街の商業業態の改善点を研究するためである。

調査アンケートでは15%の回答者が楊柳河街の業態について不満の態度を示した。不満の業態は主に衣料品店であり、衣料品店がたくさんあるが、メンズ服は非常に少ないとのことである。また、20%の回答者はボードゲームに不満の態度を示し、ボードゲームショップが少ないと述べている。13.3%の回答者は楊柳河街にお土産を売る店がないと不満の態度を示している。

d) 楊柳河街の商業業態の優勢

楊柳河の商業業態は楊柳河商店街にやってくる主な消費者層の業態ニーズに応じている。つまり、40-60才および60才以上の消費者層のお茶と麻雀を楽しむ行為ニーズに応じている。消費者層のニーズを十分に把握したため、

消費者数を確保することができる。

楊柳河街の商業業態の劣勢

主にサービスする消費者層が単一である。例えば、服装の業態においては、その多くがレディースショップで、男性の消費者に目を向けていない。

また、業態の更新が遅れていて、若年層の消費者に追いついていない。例えば、若者がよく楽しむボードゲームショップは楊柳河街で一軒しかない。

このように、人の行為需要は商店街の業態配置に決定的な作用を果たしている。業態配置はまた街道空間にも影響している。例えば、楊柳河街の西岸の達官橋から広安橋までの業態は麻雀茶館である。四川人は露店でお茶を飲んだり、おしゃべりをしたり、麻雀を打つことが好きなので、茶館の軒廊は室外の商業空間として用いられるようになった。楊柳河街の西岸の達官橋から広安橋までの軒廊空間も交通空間から商業空間と変わっていった。

6. 結論

水辺の伝統商店街の地域性表現の策：

1. 都市の自然水系構造と都市の組織に基づいて、水辺空間構成を設計する。
2. 都市の水流特性に基づいて、当地の自然環境に適した集合建築空間を建てる。
3. 水辺建築の平面配置、立面などから着手し、水辺商店街の建築様相を所在する都市区域の建築様相と統一性を持たせる。
4. 水辺商店街の街道空間の設計要素を制御し、都市の伝統的な商店街の街並みの空間特色を表す。
5. 人々の行為活動のニーズに応じて、商店街の業態を調整する。

謝辞：本研究の遂行にあたり、多くの方々の協力のおかげで完成させることができました。特に、高村雅彦教授、下吹越武人教授、岩佐明彦教授のご指導をいただきました。心より御礼申し上げます。

参考文献

- 1) 葛林：「体験型経済における伝統的な商店街の地域デザインに関する研究—大荔沙苑商店街のデザインを例にとする」、西安建築科技大學修士論文、2017
- 2) 羅丹：「都江堰中心地区を例にした都市型水辺建築の外部空間の地域表現」、西南交通大學修士論文、2011,5
- 3) 郭澤文：「四川省西部の伝統的家屋の改修におけるモダンデザイン表現に関する研究」、西南交通大學修士論文、2015,5
- 4) 夏志偉：「伝統的な商店街の空間形態に関する研究」、重慶建築、pp42-45, Vol.9, No.11, 2010,9

- 5) 鄭 南根：「新築住宅の設計における四川省西部の伝統建築の語彙の使用についての研究」，西南交通大學修士論文，2008，10
- 6) 芦原義信：『街並みの美学』，岩波書店，2001